

## 平成26年度千葉県地域コミュニティ活性化委支援事業 二次審査【プレゼンテーション】

日時：平成26年6月23日（月）14:07～ プレゼン7分、ヒアリング7分

場所：千葉県庁本庁舎1階 多目的室

出席者：渡邊、平澤、加藤、林(市民生活課)

### ■□■□申請書記載内容から抜粋

- ・ 観光の語源『観国之光利用于賓王』を「地域の光を見てオモテナシに利用」と読み解いて、観光まちづくりの理念として位置付けている。「まちづくり」はモノづくり・ヒトづくり・働く場づくりで実現する。オモテナシのため、観光ボランティアガイドが防災士とサービス介助士の二つの資格を取得することも観光危機管理である。
- ・ 被災地住民の感情に寄り添った「地縁」事業を展開することで、地域の信頼感を獲得しつつある。観光を基軸として新規事業をトータルにマネジメントし、地域で働く雇用の場を産み出す。それらが収益を上げ、その一部を社会貢献（CSRなど）として、活動へ一般寄付金や協賛金として還元されることを期待している。
- ・ 旭市議会議事録によれば「円卓会議」を言及する発言は旭市長による唯一回しかない。地域住民の声なき声の情報受信できる場として、官官・官民・民民の協働を図る場として、円卓会議が地域に根付くように努力する。
- ・ イベントごとの「移動→設営→撤去」を繰り返しは、見えないコストが重くのしかかる。活動拠点が定着し、常設できれば経営効率が向上する。このために企画から運営まで責任を持てる「NPOによる指定管理者」の誕生を目指す。
- ・ 各種情報を素早く適切に取り入れ、助成金の申請を積極的に行う。

### ■□□■提出済の申請書に対する審査委員からヒアリング事項

- ・ 新たな取組はなにか。  
復興観光まちづくりコンペの成果活用とは？  
各交付金の精算根拠は？
- ・ これまでの活動との違いはどこですか？  
今後も何らかの助成金の獲得を前提とした活動になるのですか？
- ・ 自主財源の獲得について工夫した点はどこか。  
前年度の取組みと比較して工夫している部分は何か。
- ・ 真面目だが全体的に固いと感じる。この企画で市民総出での参加が得られるか？  
構成員には農業者や旅館、郷土料理などに関わる団体も入っている。人を和やかに繋ぐ「食」の要素を考えてみても良いのでは？

□■□■プレゼン：ヒヤリング事項を踏まえて、今までの活動との違いを中心にして、次の表「本年度の主な取り組みと財源」を用いて説明した。

事業名称	所属団体	事業内容	主な財源
花と緑で旭を元気にする植栽・植樹	花と緑で旭を元気にするPJ協議会 (NPOが事務局)	継続事業 被災地・学校にコミュニティガーデン 緑の防潮堤に向けて準備作業	セブンイレブン財団:50万円 旭市:50万円 * 来年度はイオンに申請予定
復興観光まちづくりコンペの成果活用	アイラボ (NPOのWG)	飯岡歴史民俗資料館／飯岡荘1階防災資料館／仮設住宅(保存)／飯岡中移転跡地の総合的利用プランの提案	来年度に助成事業申請予定
被災地の空き地活用事業 ミニ6次産業化	復興弁当研究会 (NPOのWG)	空き地の活用を地権者・生産者・販売者が協働して、被災地に人を呼び込む商いの開発 農・水産・宿泊・飲食・商店の協働作業	旭市特産品開発事業:28万円
地域自主防災ネットワークの構築	旭市防災士・介助士ネットワーク (NPOのWG)	継続事業 本年度は地域の区長さん・議員さんに向けて防災士資格取得の呼びかけ	旭市市民まちづくり活動支援事業:25万円

□■□■ヒアリング：審査委員からの質問に対する回答

Q 1：セブンイレブン財団の助成金や旭市の補助金を受けているが、この様な支援なしでもやっていける目途があるのか。

→A 1：現在受けている支援は、物質的な物に対するものであって、運営していくための経費が足りない。

Q 2：今後も、復興を続けるには自主財源の確保が必要ではないか。

→A 2：福幸弁当やお土産品の販売より売り上げの5%の支援を受ける仕組みを、他にも広げていく考えである。

Q 3：色々な所から助成されて運営を行っているが、助成なしで自立してやっていけるのか？

→A 3：補助金頼りにせず、理想としては運営できることを目指している。

Q 4：色々な所から助成されていて、支出などが二重になったりしていないか心配だ。

→A 4：十分に注意し会計処理を行い適切にやっていく。

Q 5：防災士などの資格は取った後にフォローあるのか？

→A 5：防災イベントなどへ自主的に参加できるように、そのような機会を紹介したり、現場で役に立つような養成（たとえば自主防災組織づくりや防災教室のガイドなど）していく。

→補足：旭市のみ民間主導である。他の市町村は行政主体で資格取得支援に取り組んでいるが、どこも取得後に何もしていないようである。旭市として市民活動を支援し、それを通じて、他の市町村とのネットワークを広げて欲しい。

Q 6：指定管理者は、NPO活動にとって、大きな財源になるのではないか。

→A 6：我々としても、とても期待している。